

「宇宙一のビールと王子様」

東京都 木村智穂

宣言します。私は大人になりたくない。でも、時の流れはうそみたいに早くて、私はもう高校3年生になってしまった。

“大人”と“子供”の正確な境目はよくわからない。だけどきっと私は、大人のラインのちょっと手前にいるんだと思う。その証拠に会う人会う人に、「あら、何だか大人っぽくなったわねえ!」と言われる回数が前より増えて、今日もまた1日の終わりにまた少し、大人に近付いている気がしてしまう。でもそんなの困るから、私はいつも密かに願う。小さい頃読んだお話に出てくるピーターパンが自分の影を探しに、私の部屋に飛びこんで来たらしいのにと。もし来てくれたら喜んで彼の手伝いをして、ずっと子供でいられるネバランドに行くのになあ……。

私がこんなにも大人になりたくないのは、これから大人として生きていく事が、不安で仕方ないから。たとえ先の事を見ようとしても漠然としたものしか見えてこなくて焦るから。これから担うとされる責任、職場の怖いおばさん、炊事や洗濯も! 大人社会はとてつもなく複雑で大変そう。そして何より私は、目玉焼きしか作れない。そんな私が大人になったら? 何だか泣きそうな気分になる。

私はたまらなくなつて両親に尋ねた。大人になっていい事なんてあるのかと。すると母は不思議な目の輝きと共に、「パパという王子様に出会えた事かな♡」と答え、父は野球を見ながら、「頑張って仕事した後の、風呂上がりに飲むビールは宇宙一うまいぞ!」と言いながら、だいぶ酔っぱらっている。その時私はそんな二人に「それだけ~?」と苦笑して返した。だけど時間がたつにつれ……。どうしてだろう? 急に二人がとってもいい事を言ってくれた気がして、同時になんて素敵な大人なんだろうと思えてきた! 何だか、頑張って仕事してお風呂上がりに宇宙一うまいビールを飲んで王子様を待つのも、大人になるのも、もしかしたら悪くないかもしれない。